

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査（令和8年6月実施分）

1. 調査対象 道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m3以上の製材工場及び合板工場（調査対象工場数：85）
2. 調査実施時期 令和8年6月
3. 調査の内容 （原料在庫状況）前年同時期と比べた認識について選択式（「多い」「少ない」「変わらない」）により調査
（製品の荷動き）前年同時期と比べた認識について選択式（「良い」「悪い」「変わらない」）により調査

4. 企業判断指数の算出方法
〔（回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率（%））－（回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率（%））]
（最大値100／最小値－100）

5. 調査結果（回答工場数：78社／回答率：91.8%）

【①原料在庫状況（トドマツ）】

企業判断指数 （太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し）						
調査時点	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3	2026.4-6	2026.7-9	2026.10-12
R7.9	-12	-9	-9	-	-	-
R7.12	-	-25	-17	-14	-	-
R8.3	-	-	-36	-29	-40	-
R8.6	-	-	-	-16	-22	-14
原木在庫量（「林産工場動態調査」より）※月平均 （m3）						
	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3	2026.4-6	2026.7-9	2026.10-12
当年	187,882	152,170	168,400	-	-	-
（前年）	184,018	160,922	182,138	185,659	187,882	152,170
対前年比	102%	95%	92%	-	-	-

（概況）
原木在庫は前年を若干下回る見通し。山からの出材不足を指摘する声がある一方、原木消費が少なく在庫がたまっている工場も。
（回答企業の主なコメント）
集荷が困難な状況/出材予定が少ない/原木の動きが少ない/現在は2～3か月分の在庫がある/原木消費ができず、丸太がたまっている/販売不振のため原木は過剰気味に推移すると思われる

【②製品の荷動き（トドマツ）】

企業判断指数 （太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し）						
調査時点	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3	2026.4-6	2026.7-9	2026.10-12
R7.9	-40	-43	-45	-	-	-
R7.12	-	-39	-37	-39	-	-
R8.3	-	-	-38	-35	-32	-
R8.6	-	-	-	-31	-36	-34
原木消費量（「林産工場動態調査」より） （m3）						
	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3	2026.4-6	2026.7-9	2026.10-12
当年	202,658	213,208	188,191	-	-	-
（前年）	206,088	214,997	194,977	203,635	202,658	213,208
対前年比	98%	99%	97%	-	-	-

（概況）
製品荷動きは前年を下回る見通し。引き続き建築材の需要が低迷しており、先行きを見通せない状況の工場が多い。
（回答企業の主なコメント）
住宅用材の需要がかなり低い/製材需要の低迷が続いている/先行きは不透明/市場出しがコンスタントにあるが、それ以外はパツとしない/昨年の荷動きが低迷しすぎていた分、前年対比は良い傾向

【③原料在庫状況（カラマツ）】

企業判断指数 （太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し）						
調査時点	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3	2026.4-6	2026.7-9	2026.10-12
R7.9	-59	-48	-26	-	-	-
R7.12	-	-93	-75	-59	-	-
R8.3	-	-	-76	-73	-60	-
R8.6	-	-	-	-27	-32	-30
原木在庫量（「林産工場動態調査」より）※月平均 （m3）						
	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3	2026.4-6	2026.7-9	2026.10-12
当年	150,486	111,886	133,500	-	-	-
（前年）	233,392	194,918	198,468	185,347	150,486	111,886
対前年比	64%	57%	67%	-	-	-

（概況）
原木在庫は前年を下回る見通し。依然として不足感を感じる工場がある一方、順調に入荷できているとの声も。
（回答企業の主なコメント）
原木調達が極めて困難な状況にある/今後は原木の調達に力を入れる/順調に入荷したため維持月数は3か月強/天候が例年より良かったことで、造材や運材が順調に進んでいる

【④製品の荷動き（カラマツ）】

企業判断指数 （太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し）						
調査時点	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3	2026.4-6	2026.7-9	2026.10-12
R7.9	-21	-28	-36	-	-	-
R7.12	-	-11	-16	-26	-	-
R8.3	-	-	-10	-20	-10	-
R8.6	-	-	-	-14	-30	-27
原木消費量（「林産工場動態調査」より） （m3）						
	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3	2026.4-6	2026.7-9	2026.10-12
当年	191,272	178,010	170,708	-	-	-
（前年）	190,679	198,049	179,425	188,250	191,272	178,010
対前年比	100%	90%	95%	-	-	-

（概況）
製品荷動きは前年を下回る見通し。一定の需要は見込めているものの、製造能力の限界を指摘する声も。
（回答企業の主なコメント）
冬季造材分から原木をあらかじめ確保していたので安定的に製材を受注できている/受注は悪くないが、決して良くもない/夏場以降、牧柵製品が動き出すので対応していく/製造能力の問題もあり、前年並み

道内の木材需給の見通し（令和8年6月調査分）

—令和8年8月公表—
北海道水産林務部林務局林業木材課
北海道森林管理局森林整備部資源活用第一課

原木在庫・製品荷動き 前年同時期と比較した製材・合板工場の見通し（原木及び木材製品の流通に関する調査（北海道）による）

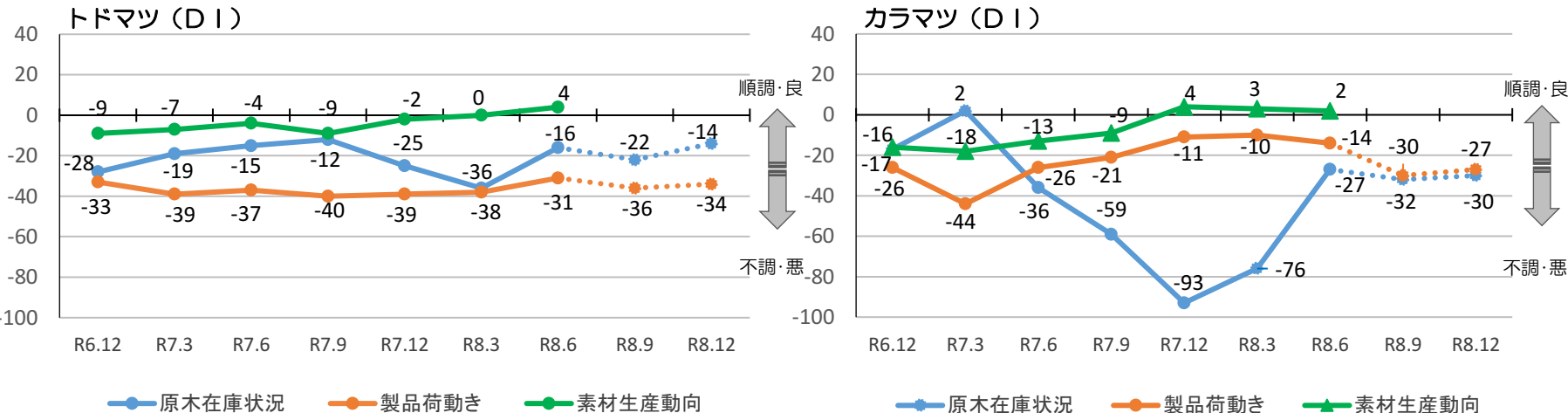
トドマツ	《4～6月》 	《7～9月》 	○製材、合板工場の「原木在庫」は前年並みとなっており、7月以降は前年を下回る見通し。	《凡 例》 《原木在庫》 《前年を上回る》 《前年並み》 《前年を下回る》
			○製材、合板工場の「製品荷動き」は原木消費量の判断では前年並みとなっており、7月以降は前年を下回る見通し。	
カラマツ			○製材、合板工場の「原木在庫」は前年を大きく下回っており、7月以降も前年を下回る見通し。	《製品荷動き》 《前年を上回る》 《前年並み》 《前年を下回る》
			○製材、合板工場の「製品荷動き」は原木消費量の判断では前年並みとなっており、7月以降は前年を下回る見通し。	

素材生産動向 前月と比較した林業事業体の見通し（素材生産動向調査（北海道森林管理局）による）

トドマツ	《4～6月》 	《7～9月》 	○素材生産動向は、「順調」17%、「並み」73%、「不調」10%となっており、 <u>並みの見通し</u>	《凡 例》 《順 調》 《並 み》 《不 調》
カラマツ			○素材生産動向は、「順調」24%、「並み」57%、「不調」19%となっており、 <u>並みの見通し</u>	

素材生産と製材・合板工場の原木在庫・製品荷動きのDI
○素材生産のDIは、前月と比較した判断指数
○原木在庫、製品荷動きのDIは、前年同時期と比較した判断指数 ※点線は今後の見通し

※「判断指数（DI）」＝（「順調・良い」とした比率（％））－（「不調・悪い」とした比率（％））

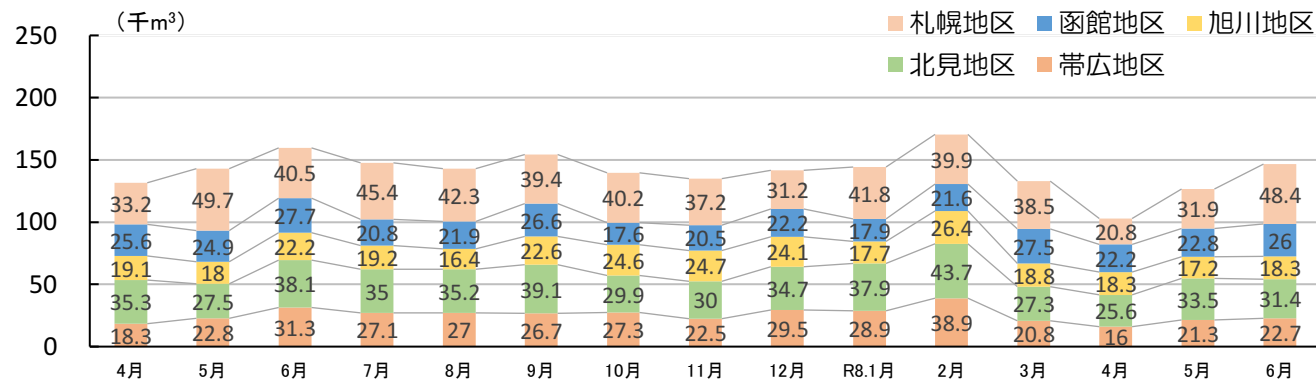


《参 考 情 報》

注：回答のあった北海道登録林業事業体の数値で全道の素材生産量の合計数値ではありません。

素材生産量の推移

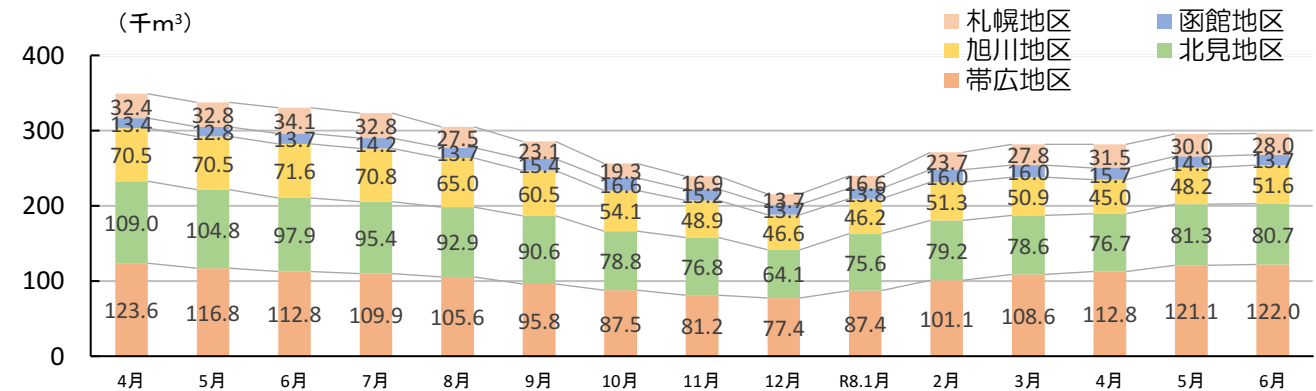
・6月の素材生産量は先月比20.1千m³増の146.8千m³
・7月の素材生産量は、7.0千m³増の153.8千m³の見通しで、札幌地区、北見地区、帯広地区で増える見通し



出典：素材生産動向調査（北海道森林管理局）による

製材工場の原木在庫量の推移

・6月のトドマツ原木在庫量は前年同月を若干下回り、原木消費量は前年同月を若干上回る見込み
・6月のカラマツ原木在庫量は前年同月を下回り、原木消費量は前年同月並みとなる見込み



出典：製材工場動態調査（北海道）による

注：道内のカラマツ、トドマツ製材工場の合計数値でR8.4～6月は速報値でエゾマツを含む

素材生産と原木在庫・製品荷動きのDI（地区別）

○素材生産のDIは、前月と比較した判断指数 ※点線は今後の見通し
○原木在庫、製品荷動きのDIは、前年同時期と比較した判断指数

